

のびるよ そだつよ

国立市立国立第五小学校 研究便り

校長 向井 美紀

NO. 4 令和3年3月5日

(編集：国立第五小学校 研究部)

この「のびるよ そだつよ」は、本校が進めている研究活動を保護者の皆様にご紹介するための研究便りです。研究内容や公開授業の日程、子供たちの様子等をホームページ上でお知らせしていきます。

1年3組 国語「たぬきの糸車」 1月27日(水)

1年生は、昔話『たぬきの糸車』で研究授業を行いました。語句だけで場面の様子を思い浮かべることが難しく、糸車を回す様子や、破れ障子・土間・障子に映る月明かりなど今の子供たちには特に実感しにくい様子を、動画や写真、小道具を使って確認しながら、お話を読み深めていきました。

「たぬきのいたずら心」が、「おかみさんとたぬきの心の交流」を通

して変容していくことに気付くことを大切にしました。

たぬきやおかみさんになったつもりで動作化を行い、たぬきやおかみさんの気持ちを想像することを通して、物語の世界を楽しみながら学習に取り組みました。

毎時間、学習のまとめとしてその時間に読んだ場面から「すきなところ」を探して書き留めました。学習のまとめでは、物語全体の好きなところを選び、紙芝居形式で発表しました。



6年1組 図工「名画の謎に迫ろう」 2月17日(水)

今回、6年1組の皆さんと一緒に、図工の研究授業を実施しました。授業の内容は、ピーター・ブリューゲルという画家が描いた「バベルの塔」という絵の鑑賞の授業です。16世紀にフランドル地方（今のベルギーから、フランス、オランダ辺り）で活躍した画家が、旧約聖書の一節を基に描いた絵で、空まで届く高い塔を大勢の人がついている絵です。

この絵をタブレットで拡大して見ると、塔の中にお店があることに気付いたり、はしごを登っている人がいたり、建物の色の違い（日が

当たっている側と影の側）や、明るい空と手前の暗い海の対比に驚いたり・・・。

一人で見ただけに、隣の席の友達と自分が発見したもの、不思議だと思ったことなどを伝え合いました。何の先入観もなく絵画を見ることこそ、これからの人生で美術作品を見る楽しみに繋がっていきます。そして友達と意見交換したことで、「災害や戦争からの復興の絵だ」「権威あるものと庶民の関係を描いている」「自然への挑戦を表している」など様々な意見がでて、子供たちの絵の見方が深まりました。

(図工専科 小松美和)

